

荒川中学校では毎年、地域貢献活動とSDGsを絡めた活動「あらかわチャレンジ」を行っている。2学期にはじまる同活動を前にした3日、地元事業所の第四北越銀行坂町支店と長谷川電気工業所の各代表を招いた講義が実施された。

講義の対象は3年生59人で、地域で活躍する事業所の取り組みを知り、地域貢献活動の視野を広げようと計画されたもの。

2社はそれぞれの業務内容を生徒に紹介し、事業の意義などについて講義。第四北越銀行坂町支

銀行と電気工事業者が講義
**地域の取組を地球規模で
 地元2事業所から学び**
 荒川中「あらチャレ」で3年生

店の渡部長支店長は「お金の価値は物価の変動や欲しがっている人、そのときのタイミングによって変わる」とお金や経済についてを中学生にも分



地元の事業所から講義を受け学びを深めた

かりやすいように説明した。長谷川電気工業所の長谷川雄一代表は、CO2や地球温暖化について

説明し「荒川のことを考えることは地球を考えることにつながる。二度とあのときの豪雨を経験したくないという思いが大切だ」と話した。

3年生は今回の講義内容をふまえ、地域の課題解決のために何ができるかを考えながら企画書を作製する予定。平田幹さん(巴)は「地元企業の業務内容や取り組みが詳しくなかった」とし、今後のあらかわチャレンジについては「SDGsの観点から荒川のためにできることを考えたい」と話していた。